



# くつろぎたいは

Vol. 74

2020 Autumn



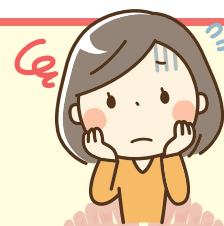
松江赤十字病院形成外科では、このたび足のお悩みに関する専門外来を開設しました。

これまでも足の病気（爪疾患・足の傷、けが・たこ、うおのめ・むくみなど）の治療をおこなってきましたが、残念ながら時間が経過して、思うように治療が進まない場合も多く経験します。

その原因としてどこに相談したらよいかわからないということがあるかと思われまます。

早めに原因を探り対策を行っていくことで、ひどくなることを予防できたり、はやめに治療を開始することで治すことができましたり、患者さんのメリットはかなり大きいと思います。

ちょっと気になるくらいでもかまいません。気軽に相談ください。



## 足

のお悩み

ありませんか？

形成外科部長

池野屋

慎太郎

## リンパ浮腫外来

第2,4月曜日

午後2時から4時

予約制

足の「むくみ」が気になりませんか？むくみはいろいろな病気から生じる場合と足のリンパの流れが悪くなって生じる場合があります。むくみの原因となる病気を見つけることもリンパの流れをよくするのも、早いことが重要です。むくみをそのままにしておくと、炎症を生じて蜂窩織炎（ほうかしきえん）を繰り返してしまいます。そうなるとむくみも改善しにくくなります。むくみが気になったら、ぜひご相談ください。

## フットケア外来

第2,4金曜日

午後2時から4時

予約制

足のお悩みよろず相談の外来です。どこに相談したらよいかわからない症状をお持ちの患者さんに利用してもらいたいです。爪のことでも結構です。

入り口として利用していただき、診察後必要と思われる専門外来へ後日紹介いたします。

足がだるいやなんだか痛いなどの症状に、重い病気がかかっていることがあります。早期発見・早期治療を目指しましょう。



Clinical Department

診療科紹介

# 産婦人科

産婦人科は現在6名の医師で診療を行っております。全員、日本産科婦人科学会認定専門医です。一般的な産婦人科診療から、分娩の取り扱い、婦人科悪性腫瘍手術など多岐にわたり診療をおこなっています。

当院は島根県の地域周産期母子医療センター（産科および小児科を備え、周産期に係る比較的高度な医療を行うことができる医療施設）に認定されており、県内の周産期医療施設と連携体制をとり診療を行っています。産科病棟は21床、新生児集中治療管理室（重症新生児受け入れ病床）は6床です。松江八束地区の中核病院として、周辺の病院・診療所から早産、妊

娠高血圧症候群、多胎、胎児機能不全などのハイリスク妊産婦を受け入れています。また何らかの合併症をもつ妊婦様には、総合病院であることのメリットを最大限に生かし、内科系、外科系、精神神経科など、種々の専門科と協力して安全に出産ができるよう万全の管理体制をとっています。ハイリスクな症例については週1回小児科とのカンファレンスを行い、情報を共有しています。その情報に基づいて、小児科医師による分娩時の立ち会いや出生後フォローを行っています。分娩に際しては、バースプランをもとに出来るだけ希望に沿った出産をしていただるようにしています。助産師が中心となり患者さんご家族の希望する分娩について一緒に考えサポートする院内助産も近々開設予定です。

婦人科分野では、子宮筋腫、卵巣腫、子宮内膜症といった良性疾患から、子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がんといった悪性疾患まで診療をおこなっています。月経困難症、過多月経、月経不順や更年期症候群といった女性特有の症状に対して、ホルモン療法や漢方薬による治療をおこなっています。

週に2日は女性医師が外来を担当しています。

手術が必要な場合は、できるだけ腹腔鏡を用いた手術を行うようにしています。最近では子宮摘出も腹腔鏡で行えるようになっていきます。臍部と下腹3か所の小さな傷で子宮を摘出でき、術後4日程度で退院することが出来ます。短期間の入院で、かつ創部も小さく患者様の負担軽減になっていると考えます。

当院はがん診療連携拠点病院に認定されています。子宮がんや卵巣がんなどの婦人科悪性腫瘍に対する治療では、ガイドラインに基づいた標準的な治療方針を患者様に提示し、quality of life（生活の質）の向上を第一と考え、患者様本人とよく相談して決めていきます。最近では、遺伝性乳がん卵巣がんなど婦人科がんに関わる遺伝性がんも知られるようになってきました。臨床遺伝専門医による遺伝力ウンセリングやがん遺伝子検査やがん遺伝子パネル検査も当院で対応可能です。

また、AYA世代（思春期及び若年成人）と呼ばれる若い世代のがんの部位別内訳では子宮頸部は18%をしめ、この世代の代表的ながんの発生部位の一つとなっております。

り、治療に際しては妊孕性温存（子宮・卵巣温存手術）も考慮しています。

進行癌の患者様の場合には、麻酔科、精神神経科などと合同で緩和ケアチームによる「癌と共に生きる」治療にも取り組んでいます。

産婦人科は女性の生涯を健康面からささえることを使命とした科です。信頼され、安心、安全な産婦人科診療を提供できるよう日々精進してまいります。どうぞよろしくお願ひします。





Clinical Department  
診療科紹介  
小児科

小児科は7名の常勤医師(うち小児科専門医6名)で診療しています。小児科は子どもを総合的にみる科であると同時にいくつかの専門分野から成り立っています。当院の小児科常勤医師には、小児科専門医に加えて以下の専門医がいます。臨床遺伝専門医、腎臓専門医、アレルギー専門医、小児循環器専門医。小児科では小児の一般診療から救急医療、新生児医療、予防接種、乳児検診と幅広い分野で頑張っています。その中で、当院の小児科で行っている診療について2つをご紹介しますいただきます。

①食物アレルギーは、近年増加の傾向があるといわれている疾患です。特定の食物(たとえば鶏卵や牛乳、小麦など)をとることにより、皮疹がでたり、咳や喘鳴といった呼吸器症状が出現したり、腹痛が生じたりする疾患です。原因となる食物の摂取と症状の出現の経過を詳細に聞き、血液検査の結果を参考にして原因となる食材を特定しますが、診断のためには原因と推測される食材を実際に食べていただきアレルギー症状が現れるかどうかを確認する食物経口摂取負荷試験を行うことがあります。疑わしい食材を食べてアレルギー症状が出現したときには、もっとも確実な診断の根拠になります。食物経口摂取負荷試験は、原因食材の確定のためにも行いますが、ほかに摂取可能な食料量の推定や食物摂取制限の解除の可否の判定の目的でも行います。食物アレルギーによる事故を防ぐためにも、あるいは食物アレルギーの子どもさんに可能な限り制限を減らして食材を食べられるようにしてあげ、るためにも大切な検査です。

②松江赤十字病院は、島根県東部における周産期医療の拠点として地域周産期母子医療センターに指定されています。周産期というのは妊娠22週から生後1週間までのことを指し、この期間の母児に対する医療を周産期医療と呼びます。当院では妊婦さん・褥婦さんの医療は産婦人科が、そして新生児の医療は小児科が担っています。新生児医療は、NICU(新生児集中治療室)・GCU(新生児回復治療室)で行われています。病院の中でも隔離されたスペースですので、一般の方々には馴染みの薄い部門だと思います。早産児や低出生体重児、出産という大きな環境の変化にうまく適応できない新生児を扱っています。当院の産婦人科だけでなく、近隣の産婦人科医院や保健師さんをはじめ行政の方々などもしっかり連携をとり良質な医療を提供できるように心がけています。

小児科スタッフ一同、地域医療に貢献するために日々研鑽を積み奮闘しています。気にかかることがあります。もし声をかけてください。どうぞよろしくお願いたします。





# 骨密度測定装置 (ホロジック社製 Horizon C) 更新しました

放射線科部 佐藤 知子

骨粗鬆症（こつそしょうしょう）とは全身の骨折の危険性が增大した状態で、「骨強度の低下を特徴とし、骨折しやすくなる骨格疾患」と定義されています。骨粗鬆症の日本における患者数は1280万人と推計され、男女別では男性300万人、女性980万人と、圧倒的に女性に多い疾患です。骨折の影響で寝たきりになったり、慢性腰痛に悩まされたり、背中が曲がって生活に支障をきたすなどの問題も発生しています。骨強度とは骨密度（骨に含まれるカルシウムなどのミネラル量）と骨質（微細構造、骨の代謝、微小骨折、石灰化などの状態から判断される）という2つの要素から成り立っています。骨密度が正常範囲であっても骨折を起こす方がおられますが、それには骨質が深く影響していることが分かってきました。今回更新した装置では従来の骨密度測定に加えTBS（Trabecular bone score）を導入しました。TBSを測定することにより骨質（骨のスカスカ度）が色で表示されるため分かりやすく評価できます。よって今まで骨密度が高いと安心されていた方もTBSを調べればご自分の骨折の危険性が分かるようになります。また、骨密度+TBSの測定結果の組み合わせによって骨粗鬆症薬の効き方が違ってくことも判明しました。ドック・検診・外来受診の際はご自身の“骨”を知るためにもぜひ主治医あるいはかかりつけ医に相談してみたいはいかがでしょうか。



2020年度 後期

## 健康医学講座

受講料  
無料

【講演時間】14:00~15:00 【受付開始時間】13:30~ 【場所】本館6階講堂

申込・問い合わせ先 … 医療社会事業課 TEL(0852)24-2111代 (受講は事前にお申込みください)

10/19日

検査のはなし

検査技師長 錦織 正明

11/4日

健康寿命をのばす—運動と寿命の関係—

理学療法士 渡邊 剛

12/17日

“頻尿”トイレが近い人のためのお話

泌尿器科副部長 川本 文弥



※状況により中止になる可能性がありますので、ご了承ください。

■病院理念……わたしたちは、『人道』の赤十字精神に基づき地域の医療に貢献します。

■基本方針……

- ① 地域の基幹病院として、説明と同意に基づく「高度」「良質」な医療を提供します。
- ② 急性期病院として保健・医療・福祉・介護機関との連携を進め、最善の医療を行います。
- ③ 救急病院として24時間地域の健康を守ります。
- ④ 赤十字病院として災害救護に貢献します。
- ⑤ 教育病院として次世代の医療人を育てます。

### 松江赤十字病院 『患者さまの権利』

1. ひとりの人間として人格と価値観を尊重される権利があります。
2. 医療提供者との相互協力のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 検査・治療法などの自分が受ける医療の内容について、わかりやすい言葉や方法で説明を受ける権利があります。

4. 説明を十分理解し同意した上で、医療行為を受けるかどうか自分の意志で選択する権利があります。
5. 医療行為の選択にあたって、他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報、個人の秘密として厳正に保護され、承諾なしには開示されない権利があります。
7. 自分が受けている医療内容を知るために、診療録の開示を求める権利があります。

私たちが、上に掲げた患者さまの権利を尊重した医療を提供するために、患者さまには次のことをお願いいたします。

- ① 自分の健康に関する正しい情報の提供
- ② 医療への積極的な参加
- ③ 病院の規則を守ること
- ④ 研修医、医学生、看護学生などの研修・実習・見学への理解と協力